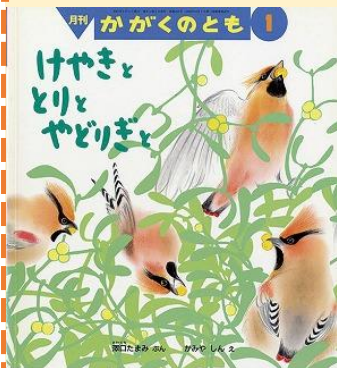


【緑地を楽しむ本】

『けやきと とりと やどりぎと』

かがくのとも 2007年1月1日発行

文・澤口たまみ 絵・かみや しん



3月2日のやままゆの会、鳥の図鑑をお持ちになった方がいました。その図鑑の「キレンジャク」「ヒレンジャク」の話になりました。緑地公園から歩いて10分程のところにある地元農家の屋敷の大きな榎の木に、

まりのような繁みに育った幾つもの宿木があり、最近そこに鳥が来ていると聞いたので、帰り道に行ってみましょうと。行ったのは12時ころ、レンジャクは来ていませんでした

が、「けやきと とりと やどりぎ」の関係が、実際に榎を目にして分かりました。Webで「ケヤキ 鳥 宿木」などの言葉で検索したらぴったりの絵本が見つかり、近くの図書館で借りることもできました。

絵本には、榎の木に根付いた宿木の実をレンジャクが食べ、食べた実はお尻からポタリポタリと出て木の枝や幹にくっつき、宿木は新しい仲間を作ることが出来る過程が描かれています。実を食べて栄養を蓄えたレンジャクは、北の国に帰って行きます。

(斎藤光代)